

10:43 「マイコン」がスタート

授業
ハイライト

主体的・対話的で
深い学びへ

実践
アクティブ・ラーニング

現代文



「マイコン」は、「My concerns ～私の関心事～」の略で、現代文の授業冒頭に、毎時間行われる生徒によるミニスピーチだ。くじ引きで選ばれた発表者が、自分の関心事について約3分間のスピーチを行う。発表者と同じグループの生徒3人はコメンテーターとして教壇の横に座り、発表者の話に対して、自分がまとめた考えを発表した。

●1年生「国語総合」現代文の1学期全18時間のうちの17・18時間目。加藤先生が『客観的と抽象的』（森博嗣著）を音読。生徒はそれを聴き、メモを取った上で、筆者の主張を「論理マップ」にまとめる取り組みをグループで行った。（P.37に単元の指導計画を掲載）

説明的文章の論理展開図の 作成を通じた生徒同士の学び合いで 論理的思考力を育む

加藤先生のアクティブ・ラーニング

学び合いを基に
論理的思考力を育成する授業を展開

加藤克巳先生が、生徒同士の学び合いを重視する授業を行うようになったのは、2006年度に始まった学校改革がきっかけだった。学校の教育理念「心豊かな、創造型・発信型のリーダーを育成する」の達成に向けて、担当教科の国語科では、指導指針として「ゆるぎない思考力の



埼玉県・私立開智高校（開智学園 高等部）

加藤克巳 かとう・かつみ

教職歴30年。同校に赴任して31年目。教頭。国語（現代文）担当。論理的思考力を育む教材を用いた独自メソッドを開発し、同校の教育改革を担う。教頭として学校経営にかかわる傍ら、現場での指導も続けている。

埼玉県・私立開智高校 （開智学園 高等部）

◎埼玉第一高校として開校。新しい文化と文明の創造に貢献できる各分野のリーダーを育てるため、「学び合う」授業の実践を通して論理的思考力を、探究学習を通して創造力を育む教育活動を行う。

◎設立 1983（昭和58）年

◎形態 全日制／普通科／共学

◎生徒数 1学年約260人

◎2019年度入試合格実績（現役のみ）

国公立大は、北海道大、東北大、千葉大、東京外国語大、東京大、一橋大などに49人が合格。私立大は、慶應義塾大、中央大、東京理科大、明治大、早稲田大などに延べ541人が合格。

◎URL <http://www.kaichigakuen.ed.jp/koutoubu/>

11:30 意見交換、内容整理



個人で作成したワークシートを基に、4人グループで意見交換を行った。進行役は加藤先生が指名。話し合い中、加藤先生は各グループを見て回った。そして意見交換が終わった頃を見計らい、「話が深まってくると枝葉の部分に話が集中しがちです。文章のテーマと筆者の主張について、グループ内でコンセンサスが取れているか確認しましょう」と伝えた。

11:03 音読を聴きながら、メモを取る



加藤先生が「森さんという方の書いた文章を読みます」とだけ伝え、ゆったりとしたスピードで文章を音読（約10分間）。生徒は事前に配られたA3判の用紙に、重要だと思う言葉をメモしていった。その後、ワークシートが配られ、自分のメモを基に今回の文章のテーマ、筆者の思考過程、筆者の主張を約7分間で記入した。

育成」を掲げ、授業改革を行った。

「『ゆるぎない思考力』とは、『聴く力』『考える力』『表現する力』『創造する力』の4つから成ると考えています。それらを鍛えるために、授業の中心に生徒それぞれが考えを持ちよってグループで話し合う学び合いを据え、2時間連続で授業を行っています。学び合いでは、どの生徒にも、自分の頭で考え、自分の意見を発表することが求められるため、『ゆるぎない思考力』を構成する4つの力が鍛えられ、論理的思考力が深まっていきます」

1年次は、論理的思考力の土台となる日本語運用能力の育成を中心とした授業を行う。

「現在の入試でも、批判的な視点から自分の考えを論理的に表現する力が重要です。その視点を育成するために、1学期は、『聴く力』『考える力』を磨きながら、文章の論理構造を捉える力をつけます。2学期は、生徒同士でディベートを行い、『表現する力』『創造する力』を高め、批判的思考力を鍛えます。そして3学期には、より深い読解ができる力を育成します」

思考の活性化・深化への配慮

生徒同士による対話を通じて、文章の論理展開を整理する

加藤先生の授業は、毎授業の冒頭に行う「マイアイコン」と、本時の課題に分かれている。「マイコン」は、生徒1人が自分の関心事についてス

ピーチを行い、発表者と同じグループの3人の生徒が、それを聴いて自分の考えを述べる時間だ。聴く、メモを取る、考える、話すという活動を通して、日本語運用能力を鍛えていく。加藤先生は、考えを論理的にまとめる手法として「PREP法」(*)を取り入れていく。聴き手の生徒は、初めは語り手の要旨をつかんだり、考えをすぐにまとめたりすることがなかなかできなかったが、PREP法の活用により、次第にスムーズに話せるようになっていくという。

その後、本時の課題である「聴解」に取り組む。「聴解」とは、文章の音読を聴き、その内容を理解することだ。加藤先生は、「聴く力」を重視した授業を行うねらいを次のように話す。

「文章を読む時も、人とコミュニケーションをとる時も、相手の主張をつかむことが大切です。その主張が把握できないと、それへの賛否や、自分の考えを表現することもできません。聴解では、重要なところはメモを取り、語り手の話を集中して聴くことにより、筆者の主張を理解し、脳の瞬発力を鍛えていきます」

今回取材したのは、1学期最後の授業で、「聴解」の2回目だった。生徒は、先生の音読を聴きながらメモを取り続け、各自で要旨をまとめる。そのメモを基にグループで話し合い、文章のテーマ、文章の論理展開、筆者の主張を図解した「論理マップ」を作成する。その「型」については既に指導しているため、加藤先生はここでの指導は行わず、生徒に委ねている。

* ビジネスのプレゼンテーションなどで取り入れられている手法で、Point（結論）、Reason（理由）、Example（具体例）、Point（結論）の順で文章を構成する。

12:00 各グループの発表



完成した「論理マップ」を黒板に貼り、グループごとに内容を発表。加藤先生は、「発表はPREP法(P.35*)で行ってください」と指示し、発表順も加藤先生が決めた。各グループ代表者1人が約1分間で発表。生徒には2枚目のワークシートが配られ、各グループの発表を聴きながら自分の考えを記入した。最後に「論理マップ」とワークシートを提出した。

11:40 「論理マップ」の作成



グループごとに、今回の文章のテーマ、論理展開、筆者の主張を図式化した「論理マップ」を模造紙にまとめていった。「論理マップ」の形式については、加藤先生からの指示はなく、ツリー型、二項対立型、マトリックス型など、生徒たちは様々な形式で作成。キーワードの内容に合わせて、付箋の色を変えているグループもあった。

「今回の文章には、対比される言葉が数多く出てきますが、ポイントの1つが、『理性的』という言葉がキーワードとして取り上げられたかどうかです。『感情的』という言葉の対比となる『理性的』という言葉は、読み上げた文章中には1度しか出てきません。重要な言葉を聴き逃さずに『論理マップ』上に盛り込めたかどうか、評価ポイントの1つになります」

ただ、加藤先生は「論理マップ」の講評はしない。生徒に相互評価をさせるだけだ。そのねらいを加藤先生は次のように話す。

「教師から指導されるのではなく、生徒自身が学び合いや他グループの発表から、よい『論理マップ』を作るにはどうすべきかの気づきを獲得することが大切なのです」

実際、前回の聴解では、「論理マップ」をまとめるのに1時間かかったが、今回はその半分の時間で終わった。

「前回も同じ二項対立の構成の文章でした。前回の反省を踏まえて、生徒には『こう聴こう』『こうまとめよう』といった意識があったため、短時間で深いまとめができたのだと思います」

場づくりへの配慮

指導は控えめとし、生徒が考えを創造する力を鍛える

グループは1学期中は固定し、同じメンバーで学び合いをさせた。話し合いの進行役である

モデレーターは着席順で指定され、すぐに話し合いがスタートする。意見交換がうまく進まないグループには、加藤先生も参加して、生徒の意見を引き出すことがあるという。

「1つの正解に到達するための授業ではなく、仲間と答えを創造していく授業を目指しています。そのため、『しなさい』という発言は控え、生徒の声を引き出すことに徹しています」

成果と課題

授業の質を保証するため、授業スタンダードの設定を検討

授業改革の成果は、行事などに積極的に取り組む生徒が増えるなど、主体性の伸びに表れてきた。また、改革初年次から進学実績の伸長にもつながったという。

「文化祭などでは、自分たちが考えた企画書を教師にプレゼンテーションし、主体的に運営・実施できるようになりました。本校の教育理念に近い生徒を育成できていると感じます」

今後の課題は、生徒に身につけさせる力を保証するため、単元ごとに指導内容・方法を明確にした授業スタンダードを設定することだ。

「生徒主体の授業をしたいと考え、生徒の反応を踏まえて指導内容や方法を毎年度変えてきました。今後は、その中でも核となる部分是不変とし、より細かい年間指導計画を立てていきたいと考えています」

単元の指導計画

【教科・科目】国語・国語総合 【分野・単元】現代文 【テーマ・作品】説明的文章の聴解を通して文章の論理構造をつかむ
 【設定時数】1学期全18時間の中の17・18時間目（1回の授業は2時間連続） 【単元目標】論理的思考力・判断力・表現力を育てる

時数	学習内容	身に付けさせたい資質・能力	授業の流れ	教師の配慮	評価方法
1・2	①《マイコン》01 ②小学校・中学校での国語学習を振り返る。 ③「意図的に国語を学ぶ」を定義する。	①話し手を見て、聴くことができる。 ②「学ぶ=受動的な学び」でなかったかを検証できている。 ③「意図的に学ぶ」とこと「自然に身につく」とことの違いが理解できる。 【知識、思考力、表現力】	・マイコン ・論理教材A →今までの学習スタイルを検証する。(個の学び) →グループで「意図的に学ぶ」ことを定義する。	【主体的な学び】自分が興味・関心を持っている事柄を、1週間に1つピックアップする。 【対話的な学び】最初の授業なので、グループ内での「話す順番」をあらかじめ指示し、全員が発言できるようにする。 【深い学び】日本語(力)は「自然に身についた」ことを自覚させるとともに、そのことのメリットとデメリットを考えさせる。	・マイコンへの取り組み
3・4	①《マイコン》02 ②「言語・認識・コミュニケーション」を定義する。 ③日本語の構成単位を整理する。 ④「論理的であること」を定義する。	①話し手を見て聴くことができる。 自分の気持ちを態度に表しながら、聴くことができる。 ②④語彙的な定義ではなく、現象的に定義できる。 ③知識の不足の有無を確認している。 【知識、思考力、表現力】	・マイコン ・論理教材A →言語・認識・コミュニケーションについて定義する。(個の学び) →個の定義を持ち寄り、グループで定義をまとめ上げ、全体に発表する。 ・論理教材B	【主体的な学び】自分が興味・関心を持っている事柄を、1週間に1つピックアップする。体験により定義する。 【対話的な学び】生徒一人ひとりが、グループワークの中で「日本語運用能力は個人差が大きい」ことに気づくことができる発問をする。 【深い学び】言語、認識、コミュニケーションの不可分性について着目させる。	・マイコンへの取り組み ・論理教材Aの取り組み
15・16	①《マイコン》08 ②説明的文章の聴解Ⅰ C:グループで「論理マップ」を作成する。 D:マップ・デザインを試行する。	①発表者のPREPを意識して聴くことができる。 自分に置き換えながら聴くことができる。 ②自分たちにとって最善の「論理マップ」を見つけていく。 【技能、思考力、判断力、主体性、多様性、協働性】	・マイコン ・聴き取りメモとワークシートを持ち寄り、「論理マップ」を作成する。 →「論理マップ」を使ってプレゼンテーションを行う。 ・相互評価	【主体的な学び】自分が興味・関心を持っている事柄を、1週間に1つピックアップする。 【対話的な学び】グループでの話し合いでは、モデレーターを中心に議論を深めさせる。 【深い学び】「論理マップ」とは「見ることができない頭の中を見る化したものであることを指示する。	・マイコンへの取り組み ・「論理マップ」
17・18	①《マイコン》09 ②説明的文章の聴解Ⅱ A:クリティカルに聴く。(うなずきと首かしげ) B:聴き取りメモをPREPに落とし込む。 C:「論理マップ」を作成する。 D:「論理マップ」に基づいてプレゼンテーションする。	①発表者のPREPを意識して聴くことができる。 自分に置き換えながら聴くことができる。 ②聴解→グループ議論→「論理マップ」→プレゼンテーションまでの一連の思考過程をよどみなく実現できる。 【技能、思考力、判断力、主体性、多様性、協働性】	・マイコン ・聴解 ・聴き取りメモの整理とワークシート記入 ・相互発表、内容整理 ・付箋の作成と「論理マップ」デザイン ・相互プレゼンテーション ・自己評価、相互評価	【主体的な学び】自分が興味・関心を持っている事柄を、1週間に1つピックアップする。「論理マップ」の自分のデザインを提案する。 【対話的な学び】「感覚(感情)的な落としどころ」で満足するような話し合いにならないように巡回確認をする。 【深い学び】「論理マップ」のデザイン根拠を確認することを通して、思考過程を端的に具現化するためのよりよいマップを検討させる。	・ワークシートの評価 ・付箋の内容についての評価 ・「論理マップ」のデザイン根拠についての評価 ・プレゼンテーションの巧拙は評価しない

*加藤先生作成の単元の指導計画を元に編集部で作成。単元の指導計画の1学期全18時間分は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト(<https://berd.benesse.jp/>)からダウンロードできます。「HOME→教育情報→高校向け」をご覧ください。

生徒の声



根本夏妃さん 加藤先生の授業で、「聴く力」が鍛えられていると感じます。マイコンで、最初にコメントーターになった時は、自分の意見を即座に組み立てることが難しかったのですが、自分がコメントーターでない時でも、自分ならどんなふうに発言するか考えるようにしたところ、それからはスムーズに発言できるようになりました。

聴解の授業は2回目なのですが、グループで筆者の主張をまとめるのに時間がかかりました。メンバーと話し合い、最も論理展開が整理されている案に落ち着きました。話し合うことで、いろいろな考えに出会い、自分の思考も整理されていきます。定期考査の出題範囲はないと聞いて驚きましたが、どのような問題が出て、自分の考えをまとめられるようにしたいです。



養田陸人さん 加藤先生からは、発言の際、聴き手に、分かりやすく、いように話を構成するよう指導を受けました。その点に気をつけるようにしたところ、最近論理的に話せるようになりました。

グループで「論理マップ」を書く上で大事なのは、テーマと主張が合っているかを確認することだと思えます。その2つに整合性があれば、その間の思考過程も大体同じはずだからです。もし、整合性がとれていなければ、思考過程をさかのぼり、どこが間違っているのかメンバーと確認し合います。今回の文章には、難しい語彙がたくさん含まれていて、一度聴いただけでは理解できなかった部分もありました。しかし、分からなかった部分も、メンバーが自分の言葉でかみ砕いて説明してくれたので、内容の理解がさらに深まりました。